

患者さまへのお知らせ・お願い

ロビーコンサートのお知らせ

- 3月23日(水) 吉田貴子さん・黒木綿子さん(うた・ピアノ)
中央棟1階会計前ロビーにて、19:00より開催いたします。30分間の演奏会です。是非お越しください。

北部病院公開講座のお知らせ

演題:『当院における緩和ケア - 緩和ケア病棟の紹介と実情 -』
 演者: 中村明央医師(外科助手 緩和ケア担当) 沢田祐子看護師長(緩和ケア病棟責任者)
 日時: 平成17年3月12日(土) 14:00~15:30
 場所: 西棟4階診療放射線専門学校講堂
 定員: 100名(定員となり次第受付終了となります)
 応募方法: 電話による申込みのみ
 申込み受付期間: 平成17年2月21日(月)~3月11日(金) 平日: 8時30分~17時
 土曜: 8時30分~13時

確認事項: 住所、氏名、年齢、電話番号の4項目
 お問合せ先: 昭和大学横浜市北部病院公開講座担当 045-949-7000(代表)
 院内掲示、広報よこはま(2月号)にて公開講座募集要項(上記)を掲載しております。

献血のお知らせ

- 神奈川県川崎赤十字血液センターからの依頼により献血車が参ります。献血にご協力ください。
- 実施日時: 2月22日(火) 10:00~16:00 (13:00~14:00は休憩時間)
 - 実施場所: 中央棟1階 西口

患者様からのご意見・ご要望

日々患者さまより頂きましたご意見・ご要望に関しては関連する部署の責任者に報告しております。改善すべき点や取り入れたほうが良いことなど出来る限り対応したいと考えております。ご意見の中で特に危険なこと、多くの方が希望していることを優先に対応したいと考えております。もちろん少数意見も対応させて頂いております。

前回に引き続き、今までのご意見の中で多くいただいたものや最近よくいただくご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきます。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせください。(= 進捗報告)

ご意見・ご要望	改善等
会計機の移設・交換について	『新札を使えるようにしてください。自動会計機や駐車場料金など早くできるようにして下さい。会計の窓口で取り替えてもらえるが、使えるようになればスムーズになると思います』とのご意見をいただきました。 対応準備を進めてまいりましたが、2月2日より、すべての会計機(中央棟)につきまして、改刷後の新券が利用可能となりました。なお、駐車場料金の精算機につきましては、メーカー側の対応が出来次第、機種変更いたします。ご面倒をお掛けいたしますが、今しばらくお待ち下さい。
会計の待ち順番について	1階自動会計機の待ち順番について、これまでいくつかのご意見をいただいております。 1月17日より、各会計機に直接お並びいただく形式から、会計機前にポールを設置し、一列に並ぶ方法に試験的に変更いたしました。今後、利用される方々のご意見を参考にし、よりよい形を作ってまいります。
車椅子の追加について	以前より『車椅子を増やして欲しい』とのご要望・ご意見を多数いただいております。 今回、外来部門に車椅子を3台追加購入いたしました。設置場所につきましては、外来部門となっております。 また、車椅子のご利用について、「公園へ行きたい、郵便局まで行きたいので貸してください」とのご要望をいただきます。しかし、患者様への貸出の場合は安全面・衛生面等のことから院内でのご利用とさせていただきます。ご了承ください。

編集後記

今週から2月に入りました。2月4日は立春ですが、春は暦のうえのみで1年で最も寒い日が続きます。せめて今年だけ、中越地方だけは暖冬のまま3月まで行ってほしく思いました。中越地震被災地の雪がすこしでも少ないことを願っています。

ここ数日、駅でお母さんに伴われた小学生を多く見かけます。中学受験生でしょうか。大学、高校の受験もこれから本番になります。今季は当初インフルエンザの発生が少なかったのですが、最近になって急増しています。受験生のみならず体調管理に気をつけて、実力を発揮してください。

広報委員会 委員 北澤 重孝

北部病院だより 第28号
 平成17年2月21日発行
 発行責任者 田口 進(昭和大学横浜市北部病院長)
 編集責任者 島田 誠(広報委員会 委員長)
 発行 昭和大学横浜市北部病院
 〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1
 電話 045-949-7000(代表)
 URL : <http://www10.showa-u.ac.jp/~hokubu/>
 北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』が参照できます。

北部病院だより

第28号

第28号【2005/2/10 発行】

発行者: 昭和大学横浜市北部病院

巻頭言

『小児科医のアドボカシー』
 ~子供の事故防止に向けて~
 こどもセンター 助教授 梅田 陽

イベント情報

医療安全推進週間特別講演会
 絵画展示会

ボランティアさんの紹介
 医師の配属・異動・退職

診療統計

外来担当表

患者さまへのお知らせ・お願い

ロビーコンサート日程
 北部病院公開講座のお知らせ
 献血のお知らせ

患者様からのご意見・ご要望



春の訪れを感じます

巻頭言

『小児科医のアドボカシー』 ~子供の事故防止に向けて~



こどもセンター
 助教授
 梅田 陽

アドボカシーという聞き慣れない言葉を書きましたが、英和辞典を調べると「advocacy = 弁護、唱道、支持」と書かれています。すなわち、「ある考えや政策を自分の為にうまく言い出せない人の為に、別の人が声を大にして外部に訴える行為」と説明されていますから、「小児科医のアドボカシー」とは「声高に世の中に向かって主張することのできない子供達に代わって、子供の健康、安全に関して小児科医が代弁をしようとする行動をおこすこと」とでも言うことができます。日本では過去40年にわたり、0歳を除き1歳から15歳までどの年齢をとっても死亡原因の1位は『不慮の事故』でした。従って我々小児科医は病気の子供を助けるだけでなく、子供が事故に遭わないような環境づくりにも取り組まねばなりません。子供の事故防止に向けて「小児科医のアドボカシー」が必要とされる根拠がここにあります。

病院を受診する最も多い子供の事故は、『たばこの誤嚥』です。この事故のほとんどは1歳未満の乳児がひき起し、時間帯は午前8時と午後8時に集中しています。「たばこの誤嚥」を防ぐ一番の方法はたばこをこの世からなくしてしまうことですが、このような非現実的な方法はアドボカシーになりません。そこで、「たばこは床から1m以上高いところに置きましょう」「赤ちゃんが1歳になるまではホテル族になりましょう(家の中で吸わないで)」と乳児健診時にお話しするしかありませんが、たばこを止められないご家族と『うっかりミス』がある限り、撲滅できないのが現状です。事故をなくす最良の方法は、たとうっかりミスをしても事故が起こりえないようにしてしまうことです。「小児科医のアドボカシー」によりそんなことができるのでしょうか? 毎年厳寒の冬になるとウイスコンシン大学小児病院では病院内の蛇口から出る熱いお湯で火傷をする子供の事故が絶えませんでした。そこで様々な研究がなされ、子供がお湯に触れて熱いと感じて手を引っ込めても、火傷を負わないですむお湯の温度は51度以下であることを突き止めたのです。これを病院のアドボカシーとして訴えたところ、当時ウイスコンシン州の電力会社は冬の電力需要の増加に頭を抱えていたため、このアドボカシーに電力会社はすぐ飛びついて来ました。その結果、小児病院には51度未満のお湯が供給されるようになり、お湯の事故はなくなったのです。これは、社会的にも容認され、事故を起こりえなくしてしまったアドボカシーの理想と考えられます。

同様なことが出来ないのでしょうか? 死亡率が高い事故の一つに「溺水」があります。日本では溺水の多くは川や海ではなく『お風呂場』で起こっています。私もお風呂の溺水で心停止の状態で見送られた患者さんを受け持ったことが2回あります。あまりに悲惨でつらい経験でした。日本には「残り湯」の習慣があり、また入り易いように浴槽の高さが低くなったのが原因と考えられています。「残り湯は止めましょう」「子供がお風呂場に一人で入らないようにしましょう」と言ってもこの事故は防げません。お母さんが電話している最中に、さらには疲れてうたた寝をした最中に落ちてしまったというかわいそうな事故もあるからです。この事故を起こりえなくする解決策は、誰も入浴していない時には、小さな動く物体を感知するアラームシステムが作動するお風呂場を作ることだと小児科医は考えています。日本の科学技術力をもってすれば経済性の成り立つ安全なお風呂が出来ると思います。あとは、社会全体が予防対策に立ち上がるように働きかけることが必要であり、これら一連の動きが「小児科医のアドボカシー」に当たります。是非実現したい事故予防の一つです。

今、小児科の有志の先生が子供の事故予防情報センターというホームページ(<http://www.jikoyobou.info/>)を開いています。興味のある方は一度のぞいてみて下さい。たいへん参考になると思います。

